

速報

鹿児島県における新種ヨコバイによるサカキ白点被害の発生状況*¹米森正悟*²・川口エリ子*²・河内眞子*²・片野田逸朗*²

米森正悟・川口エリ子・河内眞子・片野田逸朗：鹿児島県における新種ヨコバイによるサカキ白点被害の発生状況 九州森林研究 73：123－124，2020 近年，鹿児島県では，サカキの生産地で葉に白点被害が発生している。白点被害の原因は，新属新種のヨコバイ (*Stictotettix cleyeræ*) によるものとされ，鹿児島県でも同種のヨコバイが確認されている。しかし，県内における分布状況は明らかになっておらず，今後，ヨコバイの被害対策を講じる上で分布状況を把握することは重要である。そこで，ヨコバイの分布状況を推定するため，県本土 86ヶ所の神社のサカキで，白点被害の発生状況を調査した。その結果，白点被害が確認された神社は 35ヶ所，確認されなかった神社は 51ヶ所であった。また，白点被害の有無には地域的なまとまりが見られたことから，鹿児島県でのヨコバイの分布は県全域でなく，地域的に限られていると推測された。また，被害が確認されなかった地域には，サカキの主要な生産地も含まれており，今後，被害拡大防止のためには，被害発生地域からの苗木や商品等の移動に注意が必要である。

キーワード：サカキ，白点被害，ヨコバイ，発生状況，神社

I. はじめに

サカキ (*Cleyera japonica*) は，サカキ科サカキ属の常緑小高木で，本州（茨城県・石川県以西），四国，九州，朝鮮南部，中国大陸，台湾に分布している（大橋ほか，2017）。サカキは，神棚への供物や神事で利用され，神社内や庭木でよく見かける。また，サカキはスギやヒノキ林の林床で栽培され，鹿児島県の統計では南九州市，曾於市，志布志市，錦江町で栽培が盛んに行われており（鹿児島県未発表），サカキに関する病害虫の研究も行われてきた（住吉，2004）。

近年，鹿児島県では，サカキの生産地において，葉表に小さい白点の被害（以下 白点被害）が発生している（写真-1）。



写真-1. サカキの白点被害

サカキは，葉の美しさが重要視されており，白点被害の発生によって商品価値の低下が懸念される。白点被害の原因は，最近記載された新属新種のヨコバイ (*Stictotettix cleyeræ*) (Ohara et al., 2019) (以下 ヨコバイ) によるもので，ヨコバイの生態（坂本・坂口，2017 a）や防除（坂本・坂口 2017 b）に関する研究が進められ，被害の実態や生態などが明らかになってきている。

鹿児島県でも同種のヨコバイを確認しており，これまでその捕

獲消長や白点被害の発生時期などの調査を行ってきた（米森ほか，未発表）。しかし，県内におけるヨコバイの分布状況は明らかになっておらず，今後の被害対策を講じる上で，現在の被害状況を把握することが重要である。

そこで本研究では，県内におけるサカキの白点被害の発生状況を調査し，ヨコバイの分布状況について検討した。

II. 調査地と調査方法

1. 調査地

本研究では，県全体のヨコバイによる白点被害の発生状況を推定するため，生産地などの特定地域ではなく，離島を除く県本土すべての市町（全 25 市町）を対象に行った（図-1）。調査対象として，神社に植栽されたサカキを観察した。鹿児島県内には県内一円に神社が 1,000 社以上（鹿児島県神社庁ウェブサイト）あり，ほとんどの神社には神事に使用するためのサカキが植栽されている。また，各神社には長い歴史があることから，古くからサカキが植栽されていたと推測される。そのため事前に位置を確認することができ，またアクセスが容易な神社のサカキを対象とすることで，県全体を網羅的かつ効率的に調査できると考えた。調査地は，神社の規模に関わらず，各市町でその位置に偏りがないよう，県本土 86ヶ所を選定した（図-1）。調査は 2019 年 8 月 31 日から 10 月 3 日の期間で行った。

2. 調査方法

調査は，神社のサカキを対象に神社内を一巡し，白点被害の発生状況を目視で観察した。坂本・坂口（2016）は，高さ別のヨコバイ捕獲調査を行い，サカキ下部で多く捕獲されることから，捕獲の目安を高さ 1.5 m までとしている。そこで本調査では，サカキの高さ 1.5 m 以下の葉を対象に，白点被害の有無を確認し，神社の位置を地図上にプロットした。

*¹ Yonemori, S., Kawaguchi, E., Kawachi, S. and Katanoda, I. : Occurrence of sucking damage to *Cleyera japonica* by *Stictotettix cleyeræ* in Kagoshima prefecture.

*² 鹿児島県森林技術総合センター Kagoshima Pref. Forestry Technology Ctr., Aira 899 - 5302, Japan

Ⅲ. 結果と考察

白点被害の発生状況を図-1に示す。白点被害が確認された神社は35ヶ所、確認されなかった神社は51ヶ所であった。白点被害の有無を地図上で見ると、地域的なまとまりが見られ、被害が見られなかったのは薩摩半島の南部および大隅半島の中南部、北薩地域の一部であった。



図-1. 白点被害の発生状況

ヨコバイは、サカキの葉裏に寄生し吸汁することで、葉表に白点が発生することが明らかになっている(坂本・坂口, 2016; 藤本, 2019)。また、ヒメヨコバイ亜科のヨコバイは、通常のヨコバイと異なり、植物の葉の細胞質を吸汁するため、葉が変質し吸汁痕が目立つとされている(三枝ほか, 2013)。本調査において、

筆者らが確認した白点被害は、これまでの報告にある被害形態と同様であったことから、白点被害を確認した神社にはヨコバイが分布していると考えられた。これらのことから、鹿児島県でのヨコバイの分布は現在のところ、県全域でなく地域的に限られていると推測された。

鹿児島県の主要なサカキ生産地は、南九州市、曾於市、志布志市、錦江町に集中している。これらのうち、白点被害が確認された市町は曾於市と志布志市、確認されなかった市町は南九州市と錦江町であった。今後、被害拡大を防止するには、被害発生地域からの苗木や商品等の移動に注意が必要である。また、南九州市は、隣接した市町で白点被害が確認されていることから、今後、境界付近でのモニタリング調査等を行い被害の動向を把握することが重要である。

Ⅳ. 引用文献

- 藤本浩平 (2019) 林業と薬剤 229:1-8
 鹿児島県神社庁 URL: <http://www.kagojinjacho.or.jp/about/>
 (2019年8月31日利用)
 大橋広好ほか (2017) 改訂新版日本の野生植物4 アオイ科〜キョウチクトウ科, 177-181, 平凡社, 東京
 Ohara N *et al.* (2019) Zootaxa 4629:271-279
 三枝豊平ほか(2013)九州でよく見られるウンカ・ヨコバイ・キジラミ類図鑑, 190 pp, 権歌書房, 福岡
 坂本淳・坂口和昭 (2016) 和歌山県林業試験場業務報告 74:54-55
 坂本淳・坂口和昭 (2017 a) 和歌山県林業試験場業務報告 75:27-28
 坂本淳・坂口和昭 (2017 b) 和歌山県林業試験場業務報告 75:29-30
 住吉博和 (2004) 九州森林研究 57:243-245
 (2019年11月8日受付; 2020年1月15日受理)